令和7年度 教育事業 羽咋市教育委員会連携事業

「HAKUI キッズイングリッシュキャンプ」

1 趣 旨

仲間との英語を用いた体験活動を通して，楽しく音声や基本的な表現に慣れ親しむ。また，安心できる温かい環境の中で，自分の考えや気持ちを英語で表現し，積極的にコミュニケーションを図る素地となる能力の育成を図る。これらのことが自信となり，日常生活において主体的に英語でコミュニケーションを図ることにつなげることをねらいとする。

2 日程

（1）**期日・参加者等 ※複数校で、5・6年生に分かれて合計 4 回実施**

参加校	期日	児童数	国際交流員・ALT
① 羽咋小・西北台小　６年生	９月　８日(月)	８７名	１１名・２名
② 羽咋小・西北台小　５年生	９月１６日(火)	７４名	１０名・２名
③ 粟ノ保小・瑞穂小・邑知小　６年生	９月２２日(月)	５６名	７名・２名
④ 粟ノ保小・瑞穂小・邑知小　５年生	９月２４日(水)	４８名	６名・２名

（2）協力団体　特定非営利法人 YOU-I

（3）活動内容 <5･6年生>

活動		
9:00	① Opening ceremony School Introduction（学校紹介）	
9:30	② 仲間づくり（自己紹介･アクティビティ）	≪NOTO ジョイフレンド≫
11:00	③ 英語で国際交流員のことを知ろう	≪English Point Game≫
12:00	④ 国際交流員とランチタイムをしよう	≪English Lunch Time≫
13:00	⑤ さまざまな外国のことを知ろう	≪English Festival≫
15:00	⑥ またねの会	≪See you Meeting≫

3 成果と課題

（1）活動プログラムの実際　　※丸数字は、2（3）の表における①～⑥とリンクしている

①Smile, Clear Voice, Big Voice を心掛け，内容が伝わるように Gesture をつけ，Eye Contact で相手意識を持ってプレゼンする姿が圧巻だった。クイズを取り入れたり、問い返しをしたりする等、対話的な場面が多く見られた。5年時には発表者でなかった児童が、6年時には多く発表していた。

②出会ったばかりの仲間、国際交流員と打ち解け合うアイスブレイクは、交流の家の職員が英語で展開した。自己紹介では、ビンゴカードを活用して英語で交流の時間をとった。これにより、子ども達は互いの名前を知り、互いのよさ，協力することのよさに気付いていった。

③班付の国際交流員に英語で尋ね、人柄や文化、世界の遊びを体験を通して理解したり、班の仲間と一緒に英語を使ったりするミッションによって、国際交流員から QR（1/4）チケットをもらえるようにした。これを4枚集めると、午後の English Festival の入場チケットとなる展開にしたことで、に班の仲間と協力する必要感を生み、英語で表現することへのチャレンジを促すことができた。

④食事中は、食材を英語で言ったり、おかわりを伝えたり、味を伝え合ったりして、国際交流員との会話を楽しみながら食事をとっている班も見られた。

⑤入場時は午前中の English Point Game でゲットした QR チケットを受付で読み込ませると、入館を歓迎する動画が流れる仕掛けにした。どの班もうれしそうにそれを眺め、足早にブースへと駆

けていった。午前中に班付だった国際交流員は、午後は遊びや文化、食に関するブース等を出展した。これにより、多くの国際交流員と交流を深めることができた。

(2) アンケート結果について　※丸数字は、2(3)の表における①～⑥とリンクしている

◎前年度から伸びを示した主な数値と自由記述(抜粋)

「キャンプを通しての自己成長の実感」　(肯定的回答85%　消極的回答15%)

「キャンプを通しての仲間づくりの大切さ」(肯定的回答97%　消極的回答　3%)

「自分から英語でコミュニケーション」　(肯定的回答87%　消極的回答13%)

「体験活動を通して仲間と協力すること」(肯定的回答94%　消極的回答　4%)の自由選択「どの体験活動で協力できたか」では、2(3)①が 35%、③が 69%、⑤が 66%という数値を示した。

「体験活動を通して自分から英語で表現」(肯定的回答80%　消極的回答20%)の自由選択「どの体験活動で自分から英語で表現できたか」では、①が 58.5%、③が 61.2%、⑤が 50%という数値を示した。

<5年生>

① 最初は英語が苦手だったけど、このキャンプで英語を使えるようになってうれしかった。

② 友達を作ることが苦手だったけど、初めての班でたくさんの友達を作ることができた。

③ 外国の祭りや文化が分かったし、おとなになったら外国へ行ってみたくなった。

<6年生>

① 外国の方の話を聴いて、分かる単語がたくさんあり、英語で尋ねられてもすぐ答えることができた。

② 聞き取れる英語がどんどん増えて、身近な英語をたくさん使い、上達するのを自分でも感じた。

③ これまで苦手だった前に出ての感想発表ができたので、今後も自信を持って発表していきたい。

(3) 成果と課題

①成果

・日頃から児童を理解しているALTが進行するスタイルにより、英語が苦手な児童に安心感が生まれた。また、国際交流員は、明瞭な英語をゆっくり繰り返して児童に伝えたことで、「英語を聴いて理解すること」(インプット)に自信を深めた児童が、5、6年生が多くいた。

・「自己成長」「仲間づくりの大切さ」を実感する児童が、昨年度よりも増えた。特に、「自分から英語で伝えられた」と積極性を実感する児童が6年生で多く、昨年度からの積み上げが認められた。

・2(3)②、③、⑤と明確なゴールイメージを持ち、望ましい姿を共有できたことで、積極性が育まれた。午後の入場チケットが、自分達の積極性によって作り上げられるストーリーは、英語を話す、国際交流員や友達と交流する意欲を掻き立てていた。

②課題

・各クール担当教員同士で、児童個々の情報を伝え合って班編成したことは良かったが、英語のインプット、アウトプットの視点がさらに加わると、「自己成長」「積極性」をより実感すると考えられる。

・より児童の実態に即した展開となるよう、ALT との打合せを綿密に行うとともに、ねらいにそった展開の情報共有を、協力団体に依頼し、さらなる質の向上に努める。

4 事業の様子

仲間づくり
自己紹介

English Point Game

English Lunch Time

English Festival